

概要報告

実施期日	7月31日(金)
部会名	中学校 特別活動部会

テーマ 『生徒の自主的な態度を育て、連帯感を深める学校行事の在り方』

提案概要

○題材 「野外教室」

○実践に向けての課題意識

学校目標に「優しさと勇気に満ちた」とある。2学年には、優しい気持ちをもった生徒たちが多いが、自信がないことには積極的に取り組もうとしない。そこで学年目標を「あいさつ」「判断」「積極性」とし、野外教室での活動を通して、学年の連帯感を深め、積極的、自主的に行動する態度を育てることを意識して取り組んだ。

○実践の概要

- ・例年第2学年で泊を伴った野外体験教室活動を実施している。
- ・野外炊事やウォークラリー、キャンプファイヤーを通して、仲間との連帯感やクラスでの絆を深め、また場面に応じてルールを守り、自分の役割を自主的に行動することを目標とした活動をしている。
- ・第3学年で行われる修学旅行へとつなげていくことを意識した取組をしている。
- ・各内容の実施について、事前に学級委員(野外教室実行委員)が検討して進めてきた。学年全体のことを考え、協力して活動するよう指導した。学級委員も自分たちが企画・運営の中心であることを自覚し意欲的に取り組んだ。
- ・今年度の野外教室は5月上旬に実施した。新学期開始後1ヶ月で行うため、1年生の1月より学級委員が実行委員として取り組み、計画的にクラスでの話し合い活動を進めた。
- ・体験活動後の生徒の振り返りでは、質問項目を項目A(関心・意欲・態度)、項目B(思考・判断・実践)、項目C(知識・理解)の3つにあてはめ、それぞれの数値を検討してみた。その結果Aでは「よくできた」・「できた」が約9割、Bでは「よくできた」・「できた」が約8割、Cでは「よくできた」・「できた」が約9割であった。
- ・振り返りを見ると、生徒は自分たちで立てた目標「HAPPY ENJOY! ～チームワークで絆を深め自然を感じよう～」を意識して取り組んでいたと見られる。また実際に自分の役割に対して、積極的に行動する姿も見られた。
- ・体験活動後に係ごとに反省会を行い、学年集会で係長が発表。各クラスで班ごとに壁新聞を作成し廊下に掲示した。

○成果

- ・ほとんどの生徒が指示を待って行動するのではなく、しおりを見て場所や時間を確認して自主的に行動することができた。また場面に応じて係の仕事などそれぞれが自分の役割に責任をもって行動することができた。
- ・班の仲間と協力してウォークラリーや野外炊事を行うことができ、連帯感を深めることができた。またマスをつかみ取りし、自分でさばき、調理して食べることを通して自然の恵みに感謝する心を育むことができた。
- ・評価としてはウォークラリーや野外炊事、キャンプファイヤーへの取組や、時間を守り自主的に行動することができたことから、集団生活への関心・意欲・態度、また集団や社会への一員としての思考・判断・実践について、目標が達成できたと感じている。

○課題

- ・例年はもう少し遅い時期だが、今年度は新年度が始まり1ヶ月での実施であったため、家庭訪問等があり放課後の時間を使うことができず、準備の時間もあまりとれなかった。また実施後1週間で体育祭の練習が始まり、係や班ごとのまとめや振り返りはできたが、個人のまとめが十分でなかったと感じる。時間の捻出が難しかった。

質疑概要

○振り返りのアンケートに「できなかった」という回答をした生徒がいるが、記名したのか。またそういった生徒に対しどのような指導をしたのか。

→具体的にどのような行動をしたのか、を個別に聞いた。信頼関係があったので指導はしやすかった。

○5月初旬での野外活動は時間の捻出が難しく大変だと思うが、計画を見るとスタンプの時間がクラスで2時間しかないが、どのようなことを行ったのか。

→ダンスや劇などをクラスで準備した。昼休みの時間等を使ったクラスもある。時間がない中で、工夫しながら完

成度の高いものができた。

○評価に関して、場面や活動など教師の工夫と組織編成に関して

→1クラス35人～36人で1班6名。職員分担をして学年会や放課後の時間に使った資料や活動の現状の確認を随時行った。

○学級担任でない教師から評価を学級担任の先生に対してどのように伝えたのか。

→生徒の書いた資料や作った作品は回覧し、共有した。すぐに伝え合うことが大切である。

○リーダーを育てるのが難しい。班員決めはどのような方法か。また副班長は具体的にどのような仕事をしたのか。

→学級委員は班長。その他の班長はクラスの中の推薦で決める。生徒たちが選ぶので自覚をもった良いリーダーが生まれる。また、周囲も協力的になる。副班長は班長の補佐だけではなく新聞作りを担当した。活動中は新聞作りのための記録を行った。

○どんなことができれば目標を達成したと判断したのか。目標の具体化のようなものがあれば知りたい。

→活動中の教師による行動観察、目標を具体的に項目として取り入れたアンケートの結果の分析、新聞等の制作物やコメント等で判断。

○ルールは、実行委員会が決めたのか、クラスで検討して決めたのか。

→クラスにおおして学級委員が意見を集め、実行委員会で検討した。

研究協議概要 (グループ協議の内容から)

○「自主的な態度を育てる活動内容(宿泊的行事)の工夫」について

- ・達成感を与えることが大切。実行委員を動かし、生徒を中心に行事を進めていくことが達成感につながる。
- ・下級生に上級生が教えに行く機会を設定することも有効である。自主的な行事の取組につながる。
- ・活動の前に生徒に自分の課題をあらかじめ書かせることで課題に取り組みやすくなる。
- ・生徒の代表作品を全体の前で発表する。そうすることにより自信がつき、次の発表につながる。
- ・ルールは、生徒たちで検討させる。グレーゾーンのルールが出てきても生徒たちの意思を尊重する。

○「評価」の工夫・改善について

- ・学年全体で評価規準を定めて学年の共通理解を図って評価することが大切。
- ・生徒が自らを振り返り、自己評価することが大切。教師は活動の中で生徒の良さを褒め、次の評価につなげていく。
- ・場面に応じた適切な評価のためには個人を見て、集団を褒めることが大事。
- ・3年間分の活動の記録を一覧で見られるようにすると生徒の成長がわかる。
- ・生徒同士の相互評価は、お互いを励まし、勇気づけたりできるのでとても有効である。

まとめ概要

宿泊活動はどこの学校でも行われていることだが、今回の提案では必要な時間数と組織図、評価方法について記されている。今回の行事が計画的に行われたということであり、前年度から学級委員を動かし準備をしていくことで集団活動としての意識を高めている。また、学校目標から作られた学年目標をもとに系統だった取組ができているからこそ本テーマのような活動ができる。そのためにも特別活動の学習指導要領解説に目を通し、それに即した指導・評価の充実を目指してほしい。

特別活動においては、詳細な年間指導計画と評価計画の作成が課題という学校がある。学習指導要領解説では、全教師の共通理解と協力のもと作成することが明記されている。作成にあたっては、自校の既存の年間計画、活動内容、指導方法が生徒の実情に即したものかを確認し、学習指導要領に照らして検討することが大切である。全教師が共通認識をもち、育てたい能力・態度を明確にしながら生徒一人一人に適切な指導と評価を実践してほしい。